

私の背筋はピン!となり、耳をしっかりとそばだて聞き入りました。終わった瞬間「すごい!すごい!この様に編曲出来るのだ、目が不自由でありながら、なんて素敵な箏曲なんでしょう!」と感動いたしました。

続いて、落語家 桂 福点 様をお迎えし、楽しい講演をしていただきました。

掴みにはイントロクイズで正解した会員様の「歌」や金持ちになる体操では会場にいらっしゃる全員が一生懸命手を前に出し「グー・パー」、声を出して「1万円、2万円・・・」と最後は大笑い。福点様の今まで生きてきた中で色々な経験に基づいたお話で心に残った言葉として「同じ障がいを持っていても障がいを分かるとは限らない、障がいに寄り添って共に分かちあえる気持が大事!人は社会を変える、生きている事は人を変える、廻りが変わる、世界が変わる、無関心が一番いけない」とありました。最後には「感謝」という意味のオペラを朗々と歌われました。

続いてのシンポジウム「こんな社会にしたいねん」では、司会・進行で桃山学院大学副学長 石田 易司 氏、シンポジストに落語家 桂 福点 様、大阪市手をつなぐ育成会理事 長谷川 美智代 様、大阪市手をつなぐ育成会評議員 上宮 俊一 様の3名をお迎えして行なわれました。



もさりと語られ、そして親からは「子育ては地獄だった」との言葉もあったが「あんたは友達に恵まれている、いきいきしている」の言葉で救われたともおっしゃっていました。「格差社会は人を思いやる心が乏しくなる。」「教育においては専門職が少ない現状。」「経済が安定し周りが支えられる社会に!!」「子どもの頃から障がいを理解できる環境を整える事(インクルーシブ)が大事と思う。」とも語られました。

長谷川様からは、子どもが小さい頃にファミリーレストランで自分の指定席(本人が勝手に決めている)に他者がすわっているのを見て、「ギャー!」と大声を出され、廻りのお客からは「うるさいから連れて出て行け!」と言われたエピソードを話されました。長谷川様はその方につかつかと寄って行き「子どもには

障がいがあるのです」と強く言ったそうです。相手はその言葉・態度(?)に圧倒され、御主人に「大変ですね!」と言われたとの事でした。子育て中は謝っていたばかりだった様に思うが、子ども中心に家庭がまとまって一つになれた。姉たちも「弟は気になる存在。見れる範囲で見る。」とおしゃっているそうです。私はその発言を聞き、親の一人としてうれしくなりました。良い家族です!

上宮 俊一様からは、子どもが自閉症で5歳まで発語がなく東奔西走、自家製の訓練や教材づくりに励んでいたそうです。福祉現場に勤務中、虐待対応に追われていた時に奥様から「ちょっとは自分の子どもの事も考えて!!」の強い声で、まず「手をつなぐ」の冊子購入から始め、育成会入会の機会を得て現在に至るとありました。子育ての楽しさ、苦労はやってみないと分からない、教科書どおりにはいかないとおっしゃっていました。

長谷川様と上宮様には、母親・父親の立場で話されていましたが、会場の会員様には2人の話題から「そうそう、我が家にもそういうことがあったよね」「最近我が家も似たような事があるよね」「我が家もお父さんは仕事ばかりして子育てにあまり手をかしてくれなかったよね」とか、共に経験してきたであろう事柄・これからもするかも知れない事柄が述べられ、親の想いを共有する空気が生まれ、笑いあり、「そうそう、そうです」の確認あり、少しつらい事を思い出し目じりにうっすらと涙ありのとても温かい素敵なシンポジウムでした。私の胸には「育成会って、な～んて素敵な温かい会なんでしょう!!」の想いが一杯になり、心地良い想いの余韻を感じながら帰路に着きました。

最後になりますが、この様な素敵な大会を開催されるにあたり御準備くださった役員・職員・ボランティア・会員の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### 第4回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会 〔北海道札幌大会〕が開催されました(後編)

3ヶ月にわたり掲載してきた全国大会のレポートですが、最終回は第6分科会の報告になります。

#### 第6分科会 「権利擁護」

東成育成園支部 中島 由紀子

第6分科会では「権利擁護」をテーマに、基調講演とシンポジウムが行われました。昨年起きた津久井やまゆり園の事件から初めての全国大会でしたので、特